

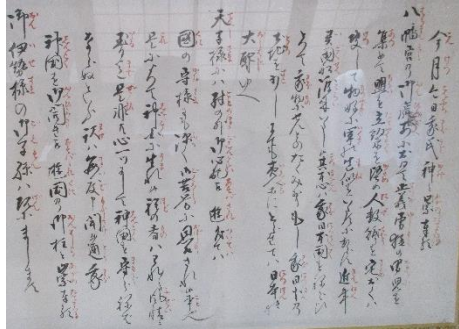
濱口梧陵の行動は危機管理！

濱口梧陵さんの行動、社会活動は全てにわたって評価をされているところです。

安政津波から広村住民に避難を呼びかけ、多くの村人を救った事は、今も語り継がれていることです。この避難を呼びかけたことを教訓として「世界津波の日」が制定されたと言っても過言ではないでしょう。この事は、危機管理の最たるものだと思います。

梧陵さんのその他の活動、教育振興や医学への貢献ということも、改めて考えてみます。

嘉永5年(1852)梧陵さんは、濱口東江、岩崎明岳と共に、「広村稽古場」を創立しましたが、その前年に「広村崇義団」を結成しています。



廣八幡神社で誓いを立てました。(左の写真はその誓詞)当時“黒船”が日本近

海に出没していた。表面的には日本との交流を求めていたのだが、あわよくば侵略しようとの狙いがあったものと考えられる。梧陵さんは、この外国が攻めてきた時には、自分達の手でこの国を守る必要がある、ということで“崇義団”を結成した。その延長線上に「広村稽古場」があり、「耐久社」へと続いていった。

医学への貢献ということも、蘭学医を支援したのですが、住民の病気を直すという単純な目的ではなかった。特に、銚子の町医者関寛斎にコレラ治療、防疫を学ばせ、銚子でのコレラ蔓延を防いだ、ということは危機管理そのものと言えます。広村でも、吉村英徴の「那耆病院」設立を支援しました。

こうしてみると、濱口梧陵さんの行動は全てにわたって危機管理といえると思います。

「稲むらの火の館」見学へどうぞ

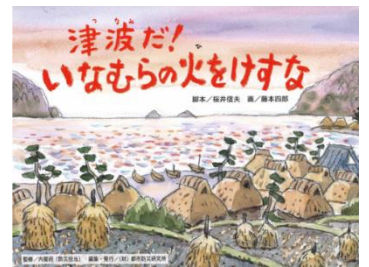
「稲むらの火の館」はこれまでに、34万人以上の方が見学に来られています。広川町民の皆様も来られていただいていると思いますが、館内は「世界津波の日」制定以後リニューアルされています。人型ロボット「ペッパー」も配置されています。こうしたことから、改めて見学にお越しください。特に、学生さんは、3D映画を英語等の言葉で聞いてみませんか。中国、韓国、フランス、インドネシア、スペイン語での案内もあります。体験してください。

町が認めた団体(町からの補助団体)は1年に1回は防災研修で、無料で見学できます。

詳しいことはお問合せください。

紙芝居の配布残部僅少！

昨年もお知らせしましたが、「津波だいなむらの火を消すな」という紙芝居を必要な団体はお申し出ください。昨年(一財)日本防火・防災協会から紙芝居をいただき、希望団体に配布してきました。小学校、子ども会、読み聞かせサークル等にお渡ししてきましたが、残りは少なくなってきました。ご希望の団体は、「稲むらの火の館」まで取りにお越しください。先着順で、無くなり次第終了です。



「稲むらの火講座」へご参加を

日時 3月17日(土)午後1時30分～
場所 稲むらの火の館3階
講師 奥村与志弘・関西大学准教授
演題 『広川町だからできる安全・安心なまちづくりー「企業・地域・行政の強み」と「太陽の防災」ー』
申込 0737-64-1760へ

濱口大明神縁起(その13)

濱田康三郎 (かわせみより)

私はここ数日の間は、今宵の此の会合を指折り数えて待ちわびたのでした。私の空想は余りにロマンティックでございましょう。けれども、さき程から御様子を拝見して居れば居る程、何故かは知らず、私はただもう一途に、日本の何処のお方とも存じませぬ此の濱口様が、あの紀州有田の尊敬すべき老長者の何代かの御子孫でありにちがいない、という確信を起さずにいられないのでございます。こんな失礼なことをお尋ねしてとんだ御迷惑をおかけするのか存じませんが——濱口様はハーン氏の物語の主人公とは、何かの関係をお持ちなのではございませんでしょうか。』

云い終って彼女は静かに腰を下し、再び青年の方をじっと見守った。

会衆の好奇心に満ちた眼は、期せずして司会者の傍に席をとっていた講演者の上に注がれた。婦人の質問の最初から妙に落ち着きのないそわそわした態度をしていた青年紳士は、婦人の話の進むにつれて、いよいよ抑え切れない心の興奮に、人目を避けつつ幾度かハンケチを執り出して、さり気ない風を装うては、拭いても拭いても拭き切れぬ熱い涙の湧いて来る目蓋をこすっていた。そして彼女の質問の言葉を半ば空に聞き外したかのように、やや長い間そのまま呆然としていたが、漸く自分で自分を励まし、身体をぶるぶると小さく戦かせながらよろめき立って、息忙しい皺枯れた声で、

『ミス・ロレッツ——おたずねのハマグチ・ゴヘイは、私の実の父でございます。』

と言い捨てたまま、へたへたと椅子の上に倒れかかり、顔を両手の中に埋めた。

『実のお父様——?』

ホールの中は一度にどよめき渡った。遠くの方には態々立上って物珍しげに講演者の姿をのぞき込むものさえあり、静まりかえっていた場内の其所此所には私語が頻りにとり交わされた。司会者は驚いて青年の背後に進み

寄り、彼の肩に手をかけ顔をのぞき込んで、小声で何事かを頻りに囁いた。青年はすねてでもいるように、ただ頷いたりかぶりを振ったりするだけで、ハンケチをいよいよ強く両の眼の上におしつけた。

幾分かの息づまるような無言劇——と、会衆の眼には映じた——の後、司会者デイオシイは、異常な興奮に顔を光らせて、講演者をかばい隠すように一二歩前に進み出で、聴衆に向って口を開いた。 (つづく)

<お客様の声>

- ① 滋賀県ですから、海はないのですが地すべりの危険地帯です。今ある家は直したりできるのですが、新たに新築は出来ないという規制があるのです。(滋賀県からの自治会の方)
- ② インターネットを見ていて、「稲むらの火の館」を見つけました。私のところは、100m以上の高台ですので、津波の心配はないと思いますが、台風等自然災害はあるし、海のそばに居る時、地震があれば津波の心配があるので勉強しておこうと思いました。

(鹿児島県日置市議会議員さん)

- ③ 昨夜この近くへ宿泊して、どこか見学するところないですか、と聞いたところ、「稲むらの火の館」と教えてもらいました。子供が、「稲むらの火」は教科書で勉強したと言いました。私は、この話全く知らなかったのですが、来てみて良かったです。

(大阪から家族連れで来られた女性)

<稲むらの火の館の紹介>

濱口梧陵記念館/津波防災教育センター
〒643-0071 住所 和歌山県有田郡広川町広 671
<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamuranohi/>
*開館時間：午前10時～午後5時(受付終了4時)
*休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)
(世界津波の日の11月5日は開館)
年末年始(12/29～1/4)
*記念館だけの入場は無料です。